



平成 23 年 10 月 28 日

各 位

会社名 株式会社 フェヴリナ
代表者名 代表取締役社長 遠藤 英樹
(コード番号 3726 東証マザーズ)
問合せ先 Accounting & Finance Division
Senior Manager 堀川 大輔
(TEL. 092-720-5420)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 23 年 5 月 13 日に公表しました業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 24 年 3 月期 第 2 四半期累計期間 (平成 23 年 4 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想 (A)	930	△56	△56	△58	△126.35
今回発表予想 (B)	707	△130	△129	△131	△286.25
増減額 (B - A)	△223	△74	△73	△73	—
増減率 (%)	△24.0%	—	—	—	—
(ご参考) 平成 23 年第 2 四半期累計期間	1,025	△14	△14	△64	—

2. 平成 24 年 3 月期 通期 (平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想 (A)	2,100	50	50	30	65.24
今回発表予想 (B)	1,510	△244	△245	△247	△537.20
増減額 (B - A)	△590	△294	△295	△277	—
増減率 (%)	△28.1%	—	—	—	—
(ご参考) 平成 23 年 3 月期	1,909	0	2	△85	—

3. 平成 24 年 3 月期 第 2 四半期累計期間業績予想数値の修正理由

当第 2 四半期累計期間において当社は、徹底したコスト削減と社内組織の再構築を進める一方、「新規顧客の拡大」と「既存顧客の確保」、この 2 つを軸に事業を進めてまいりました。

まず、新規顧客の拡大に関しましては、低価格帯に設定しております新商品「ウォータークレンジングジェル」のプロモーション活動を積極展開し、顧客獲得の間口を広げてまいりました。

次に、既存顧客の確保に関しましては、新商品「7GFセラム」の販売促進に注力し、結果として、顧客購入リピート率の向上を図ることができました。また、前事業年度より計画しておりましたコールセンターシステムの構築完了により、効果的かつ効率的な顧客検索・顧客対応が可能となりました。しかしながら、既存商品売上の急激な落ち込みにより、期首に定めた計画を大幅に下回る業績推移となり、売上高に関しましては、予想数値を 223 百万円下回る 707 百万円となる見込みであります。利益面に関しましては、この状況に対応すべく更なる人件費、媒体費等の削減を行いましたが、売上高の落ち込みをカバーすることができず、営業損失 130 百万円、経常損失 129 百万円、四半期純損失 131 百万円となる見込みであります。

以上の理由により、平成 23 年 5 月 13 日に公表しました当第 2 四半期累計期間の業績予想数値を修正いたします。

4. 平成 24 年 3 月期 通期業績予想数値の修正理由

当社をとりまく事業環境につきましては、単価の高い消費財購入意欲の低下傾向を顕著に受けており、引き続き、厳しい経営環境が続くことが予想されます。しかしながら、当社の経営理念であります「FAVORINA CREDO」のもと、誠実な企業活動を通し、更なる成長基盤を確保してまいります。

期首に定めた「新規顧客の獲得」、「既存顧客の確保」という施策を充実化すべく、今後は、より顧客の視点・ニーズを重要視する「マーケットイン」の発想を取り入れてまいります。

具体的には、顧客の要求する効能・価格帯等に応えたオリジナリティに溢れた商品ラインナップを設定し、確実に顧客稼働数の拡大を図ってまいります。

また、総接触時間がテレビ広告よりもWEB広告へ拡大するという流れのなか、戦略的WEBプロジェクトを発足し、新規拡大、導線強化、アップセル、CRM(Customer Relationship Management)、クロスセルという点に注力し、WEBからの顧客を拡大してまいります。なお、上記施策により、漸増的な売上高増を見込んでおりますが、施策効果が明確にあらわれるのは次期以降になると予測しております。したがって、当事業年度下期に若干売上増が見込めつつも、通期においては期首に定めた売上高に対して 590 百万円未達となる 1,510 百万円となる見込みであります。また、利益面につきましても、売上高の伸び悩みに伴い、従前の予想数値を大幅に下回る見込みとなります。

以上の理由により、平成 23 年 5 月 13 日に公表しました通期業績予想数値を修正いたします。

- ※ 上記の予想は、発表日現在のデータに基づき作成したものであり、予想につきましては様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。また、当該予想数値に関しましては監査法人の監査を受けていない数値ですので、決算数字とずれが生じる可能性があります。

以 上